

札幌市民交流プラザ

■札幌の新たなまちづくりを先導する創生交流拠点の一角 「札幌創生スクエア」に整備

- 放送局やオフィス、公共駐輪場、駐車場などの施設も入居する
「さっぽろ創世スクエア」の一部として札幌市民交流プラザがある。

■札幌市民交流プラザは文化芸術拠点と図書・情報拠点の複合施設（2018年10月開館）

（札幌市民交流プラザ条例に基づく2つの施設）

①札幌文化芸術劇場 hitaru ヒタル（3～9階）

- 国内外の優れた舞台芸術や様々な公演を鑑賞できる。
- ホール（2,302席）、クリエイティブスタジオ（448㎡）、
中小練習室、控室

②札幌文化芸術交流センターSCARTS スカーツ（1,2階）

- 市民の文化芸術活動をサポートし、札幌の文化芸術を支え、
育て行く。
- SCARTS スタジオ（82㎡×2）、SCARTSコート（165㎡）、SCARTS
モール（60㎡×3）、SCARTS ミーティングルーム（36㎡×2）

（札幌市図書館条例に基づく）

札幌市図書・情報館（1,2階）

- 都心に集う人々に仕事や暮らしに役立つ情報を提供する課題
解決型図書館
- レファランスクォーター、ミーティングルーム、コーワーキン
グスペース、データベースコーナー



札幌創生スクエア外観

- ・ 高層部が業務床等
- ・ 低層部が札幌市民交流
プラザ

■管理運営体制

①ヒタルと②スカーツは一つの指定管理者が運営しており、札幌市民交流プラザ全体の維持管理はこの指定管理者が担っている。

図書・情報館は市の直営施設であり、事業運営のみを担っている。

※ここでは市民交流プラザ条例施設について施設を見る

■札幌文化芸術劇場 (hitaru)

- オペラ・バレエなどの舞台芸術に適した多面舞台を有する劇場(2,302席)



■札幌文化芸術交流センター (SCARTS)

- 発表や交流、展示や創作の場として利用が可能なスペースが用意されている



コート (165㎡)



スタジオ1, 2 (各82㎡)

■札幌文化芸術交流センター (SCARTSモール)

- 多くの市民や観光客にアピールできる屋内広場。プロモーションイベントや物品販売、マルシェ、作品展示にも利用できる。1階と2階、3区分ある。



モールA, B, C (利用スペースは各60㎡)

■規模

- 延床面積 37,332㎡
敷地面積 11,676㎡

■クリエイティブスタジオ

- 劇場の主舞台と同程度の広さ、移動観覧席の設置により演劇公演、ワークショップなどに適する (448㎡)



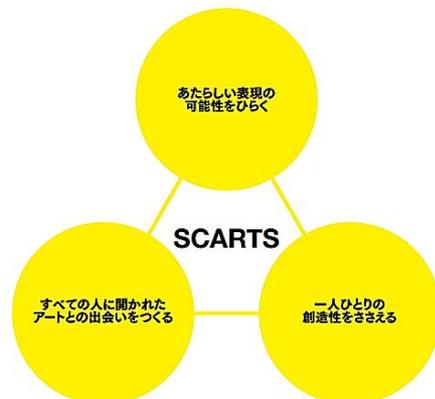
① 「誰もが集い、交流し、新しい価値を創造する場」に参考となる事項

1. 劇場にアートセンターを複合させる ～hitaruとSCARTSの相乗効果の期待～

- 札幌市民会館、北海道厚生年金会館（愛称ニトリ文化ホール）の老朽化に伴い、その代替となる劇場整備が検討されるなかで、アートセンター機能を併設する提案が、SCARTSの設立につながった。
- hitaruとSCARTSが複合した札幌市民交流プラザは、「札幌の文化芸術を支え、育てていく、文化芸術の中心となる拠点」と位置付けられた。SCARTSは3つのミッションを定めている。

- ①新しい表現の可能性をひらく
- ②全ての人に開かれたアートとの出会いをつくる
- ③一人ひとりの創造性をささえる

- 札幌市は多くの文化施設を整備し、多彩な事業を展開してきたが、こうした取組みを有機的につなぎ、文化芸術の持つ創造性を生かしたまちづくり、地域課題の解決に展開していくための役割がSCARTSに期待されている。



2. 市民文化交流プラザの事業体系

- 市民文化交流プラザの主催事業体系は以下のように示される。
- (1) 札幌文化芸術劇場に関する事業
 - ①創造事業
 - ②鑑賞事業
 - ③普及・育成事業
 - ④交流事業
- (2) 札幌文化芸術交流センターに関する事業
 - ①文化芸術の普及・発信、にぎわい創出事業
 - ②文化芸術活動支援事業
 - ③文化芸術に関する調査研究事業
- (3) 広報・利用促進に関する事業

■札幌市図書・情報館

コンセプト：はたらくをらくにする
ビジネスパーソンを支援する図書館

- ①仕事や暮らしに関する図書・情報提供
 - 関係機関の相談窓口やセミナー共催
- ②札幌の魅力発信
 - デジタル映像や図書で魅力を紹介
- ③知的空間の創出
 - 会話可能な空間や充実したIT空間

3. 街の中の居場所

- 市民交流プラザ、1階、2階は、札幌都心部の街の中の居場所となっている。
- ① 3つの地下鉄路線が集結する大通駅から地下通路で直結している（天候に左右されない）。
- ② SCARTSモールは、自由に入出りでき、椅子も置かれ、様々な催事も行われる広場。
- ③ カフェには図書・情報館の図書も持ち込め、反対に飲み物を館に持ち込むこともできる。
- ④ 図書・情報館は話をしながら調べものができる。ミーティングもできる。



SCARTSモール(2階から1階)



SCARTSモール(1階)マルシェ



カフェ

4. 市民とアートのつなぎ手を育み、 スタッフとともに活動する

- SCARTSでは、アートを通して人の心を開く、アートを介してひと・もの・ことをつなげる、などの役割を担う「アートコミュニケーター」を育て、活動に参画させている。
- 2022年3月に3年半活動した第一期生25名が卒業し、卒業展を行った。現在は第三期生が学び、活動している。

(アートコミュニケーターの活動)

- ① ワークショップ等の企画・実施
- ② 鑑賞サポートプログラムの実施
- ③ ウェブでの独自情報発信
- ④ 自主企画の立案・実施



子ども向けワークショップ実施



鑑賞プログラム
「対話による鑑賞」の実践

注) 写真は全て施設HPより

② 「仙台を知り、磨き、仙台オリジナルの発信につなげる場」に参考となる事項

1. 北海道オリジナルにこだわった創造事業

- 道内初の多面舞台を備えたホールの機能を活用し、創造の場として札幌発のオペラやバレエ等の舞台芸術を展開することを目指している。
- 3つのプロジェクトいずれも出演者は北海道在住かゆかりのある人を対象としたオーディションを行うなど、地域の人材にできるだけ機会を与えることとしている。
 - (1) hitaruバレエプロジェクト
 - (2) hitaruオペラプロジェクト
 - (3) Creative Opera Mix プロジェクト
- 特に、Creative Opera Mixは、オペラ歌手、ダンサー、ピアニスト、DJ、バンドマン、札幌の文化シーンの最前線で活躍するアーティストが各分野から集結。新しい芸術表現をオール札幌の顔ぶれとhitaruの舞台技術を結集させた作品を生み出している。



Photo by Keigo Sadahisa (doppietta)



Photo by Keigo Sadahisa (doppietta)

2. アーカイブのあり方に関する調査研究

- 札幌芸術劇場hitaru、と札幌文化芸術交流センターSCARTS、札幌市図書・情報館が開館からの歩みの蓄積とこれからのアーカイブのあり方について調査研究を続けてきている。
- その一環として、事業広報ツールであるフライヤーを使ったアーカイブ展「つむぐ〜フライヤーで振り返るhitaruとSCARTSの3年間」を市民交流プラザに通じる西2丁目地下歩道壁面で行った。
- 同時に、配信による文化芸術鑑賞の機会の広がりを背景に、ライブ配信やアーカイブ配信の課題についてのセミナーをオンラインで行った。



注:このページの写真はいずれも施設HPより

3. SCARTSレクチャーシリーズ「バトン」

- 施設職員や文化事業企画者、アーティストのみならず、文化芸術に関心のある人が実践的な知識やスキルを学ぶシリーズ。今日の社会と芸術の関わり方の議論を「バトン」していく学びの機会として通年で実施している。
- このレクチャーには北海道大学大学院経済学研究院橋本努教授がナビゲーターとして参画し、毎回選定した本を基に、ゲストと議論をしながら、参加者と考える機会を設けている。
- 多様なテーマが選定されえるが、例えば『炭鉱と美術 旧産炭地における美術活動の変遷』を題材とした回では、旧産炭地は歴史文化的な遺産として注目されるが、「遺産」として記憶にとどめるために、アートは何をなすうのか、アートは衰退した地域をいかにして再生しうのか、を議論していく。



レクチャーチラシ
施設HPより

4. 先端技術とアート

(1) VR能 攻殻機動隊

- SF漫画・アニメ作品の「攻殻機動隊」を題材に、能とVR技術の融合が生み出す公演を制作。2018年に実施した「スペクタクル3D能」を発展させ、VRメガネをかけずに体感できる世界初の技術を応用した。



公演チラシ
施設HPより

(2) SCARTS×SIAFラボ

アートエンジニアリングスクール

- メディア・アーツ都市札幌（ユネスコ創造都市ネットワーク）におけるメディア芸術活動の発信、メディアアートに関わる人材育成、人的ネットワークの構築を目的とした学びの機会を、SCARTSと札幌国際芸術祭実行委員会・SIAFラボが連携してスクールという形で提供している。
- 2021年度はNTTインターコミュニケーションセンター（ICC）、山口情報芸術センター（YCOM）と連携し、メディアアートの展覧会や作品制作の実際について、見学や交流を通じて学ぶプログラムを作成、配信で実施した。

③ 「ネットワークを形成し、市内外から人を呼び込む場」に参考となる事項

1. 優れた立地を生かす「hitaruのひととき」 2. にぎわいを創り出す交流事業

○ 市内中心部の地下鉄直結というすぐれた立地条件を活用し、料金設定をおさえ、より親しみやすい公演を行い、実演芸術に親しむ機会が少なかった市民にも親しんでいただく取組みを行っている。

①魅惑のミュージカルナイト

○ 宝塚歌劇団出身者によるミュージカル楽曲のコンサートを自主企画で実施している。

②尾高忠明presents偉大なる英国の巨匠たち

○ 札幌文化芸術劇場の芸術アドバイザーである尾高忠明氏がhitaruのために選曲したプログラムを札幌交響楽団とともに演奏。

③声優朗読劇 VORLESEN ～フィガロの結婚～

○ hitaruオペラプロジェクト関連事業として裾野拡大を図るため朗読劇として再編、公演。

○ 札幌文化芸術劇場hitaru、札幌文化芸術交流センターSCARTS、札幌図書・情報館が複合する札幌市民交流プラザの特性を活かし、多様な市民参加・交流の場を提供し、多くの市民が文化芸術に触れることで施設のにぎわい創出につなげていく取組みを行っている。

①PLAZA FESTIVAL 2021 Daiwa House® PRESENTS 熊川哲也 Kバレエカンパニー Autumn Tour 「シンデレラ」

②PLAZA FESTIVAL 2021 札幌爆音映画祭

③PLAZA FESTIVAL 2021 「MORIHICO. Marche de GRENER ×プラザマルシェ」

3. 札幌市民交流プラザとしての広報

○ プラザの情報誌「WAVE TIMES」を年4回、3施設の公演・イベント等を掲載するスケジュール冊子「PLAS」を年6回発行している。

○ 近隣地域のにぎわいを醸成するため、メンバーズ会員向け特典提供店を紹介する「創生おさんぽMAP」を作成、配布している（近隣のホテル・飲食店約100店で割引等が受けられる）。



②の公演は昼間の公演であり、入場料金は3000円と低廉である。札幌には札幌コンサートホールKitaraがあるが、立地の良さからhitaruのコンサートは人気があるといわれる。

公演チラシ 施設HPより

4. 大学連携の推進

○ 市内外の大学とは様々な形で連携をしている。

①札幌大谷大学との連携「アートプログラム」

○ オペラやバレエの主要な公演について、専門の教官の協力を得て、見どころ、聴きどころをわかりやすく解説するプレ講座を開催。

②札幌大谷大学芸術学部音楽学科や北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツ文化学科音楽専攻との連携コンサート

○ 学生の演奏を中心にSCARTSらしいコンサートを企画。

③北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）との連携

○ メディア・アーツ都市として、メディアやテクノロジーに係わる表現に触れる機会を創出していくため、緊密な連携を継続している。



SCARTSコートでの公演
注：写真は施設HPより

5. アートによる地域の活性化

■西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト

- さっぽろ地下街オーロラタウンと札幌市民交流プラザをつなぐ「西2丁目地下歩道」の壁面をスクリーンにした映像作品制作を行っている。
- 毎年1組ないし2組の作家に委嘱し、4面プロジェクトで構成された横長の特殊スクリーンと、歩行空間という特徴を生かしながら、多様で実験的な映像表現を探究している。
- 年間を通して上映され、2022年度現在、2019年から2022年の間に制作された5作品を上映している。



注：写真は施設HPより